

北欧のハブ港として知られるスウェーデン・ヨーテボリ(Gothenburg)港では、長引く労働紛争の影響により取扱コンテナ貨物量が減少しています。今号では、ヨーテボリ港における労働紛争と荷扱量の減少、物流への影響についてお伝えします。

1. ヨーテボリ港における労働紛争と荷扱量の減少

北欧の主要ハブ港が過去最高のコンテナ取扱量を記録する一方で、ヨーテボリ港(APM Terminal Gothenburg)は2017年、年間153日にも及ぶスウェーデン港湾労働者組合(Swedish Dockworkers' Union)による抗議行動の影響を受け、年間のコンテナ取扱量が約30%(180,000TEU相当)減少しました。長期に亘る労働紛争は、これまでスカンディナヴィアの玄関口としての発展を目指して、300もの地点とヨーテボリを結ぶ鉄道輸送網の構築など、インフラに多大な投資を行ってきた同港に大打撃を与えており、大陸間を結ぶスウェーデンの物流拠点としての地位をも脅かしています。



Gothenburg 港 (Google Map)

2. 物流への影響

ヨーテボリ港は20,000TEU超のメガコンテナ船の荷役が可能で、3大アライアンス(2Mアライアンス、オーシャンアライアンス、ザ・アライアンス)の寄港地にもなっていますが、労働紛争が続く限りメガコンテナ船の受け入れは難しいと見られています。これにより別の港からフィーダー船やトラックで輸送するなど、荷主にとってはコストの増加が、港にとっては競争力の低下が懸念されます。また、ヨーテボリ港では将来を見据えた大規模な浚渫計画が予定されていますが、労働紛争が長期化し、ヨーテボリ港を経由する物流チェーンに対する顧客からの信頼を得られなければ、この計画自体も危機にさらされることになるでしょう。

APM Terminalは過去に2度、仲裁機関からの提案内容を受諾しましたが組合側はいずれも応じず、ストライキや港の閉塞などが発生しており、今もなお労使協約の締結には至っていません。港湾側は、効率性・生産性の高い港への早期回復に向けて、5月末までに労働法制に関する労働改革が整備されることを期待しています。



本 Topics に関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら、弊社営業担当までお寄せください。編集にあたっては万全の注意を行っていますが、本 Topics 情報の正確性を保証するものではなく、これにより生じたいかなる損害に対して弊社は一切の責任を負わないものとします。

船舶・貨物・運送の保険の情報サイト「マリンサイト」

http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/hojin/marine_site/index2.html